

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02119

研究課題名(和文)書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈との比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Technical Terms on the Artistry of Calligraphy and Contemporary Scholars' Interpretations

研究代表者

河内 利治 (Kawachi, Toshiharu)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：70249077

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：(1)『《中国美学範疇辞典》訳注索引』から用例を抽出してデータベース化し、「審美術語用例集」を作成した。全286例中、第一系列「心」の「心」「意」と第四系列「合」の「神」「氣」に用例が多いことが判明した。(2)林語堂・宗白華・李沢厚・葉朗・熊秉明・邱振中の審美術語の用例検出とその書の芸術性の考察を行った。(3)中国古典の書論に見られる術語をこの6人の学者がどのように解釈したかを試行的に対照させた一覧表「中国美学範疇解釈対照表」を作成した。古代漢語を現代漢語、日本語に置き換え得るかどうか本科研の課題であり帰着点である。(4)〔国際研究集会〕「シンポジウム 書の芸術性 の伝統と未来」を開催した。

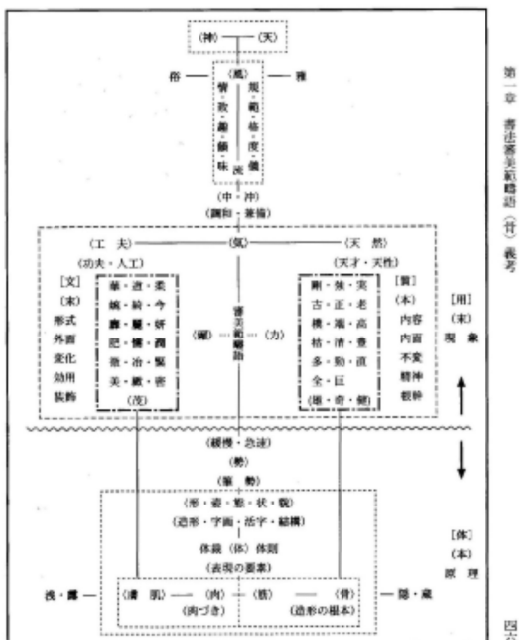
研究成果の概要(英文)：We drew up a “List of Aesthetic Terms” used in classic treatises on calligraphy by databasing illustrations from “An index to the translated ‘Dictionary of Chinese Aesthetic Categories.’” Many examples of ‘xin’ in the first group of ‘xin’ as well as ‘shen’ and ‘qi’ in the fourth group of ‘he’ have been found. We searched for aesthetic terms used by the six contemporary Chinese scholars: Lin Yutang, Zong Baihua, Li Zehou, Ye Lang, Xiong Bingming, and Qiu Zhenzhong. Based upon the results of the study above, we drew up a “Comparative Table of Chinese Aesthetic Categories,” which shows how the six scholars (re-) interpret aesthetic terms in classic treatises on calligraphy. It is our subject and goal to pursue how to replace classical terminology with modern Chinese or Japanese. We held an international academic meeting “Symposium: Tradition and Future of the Artistry of Calligraphy,” inviting two contemporary Chinese scholars, Gao Jianping and Qiu Zhenzhong.

研究分野：人文学

キーワード：審美術語用例集 中国美学範疇解釈対照表 林語堂 宗白華 李沢厚 葉朗 熊秉明 邱振中

1. 研究開始当初の背景

中国現代史上、蔡元培・王国維・梁啓超は「美学」の概念を中国に紹介した先人であり、その後の重要な中国美学者は 4 人—朱光潜・宗白華・蔡儀・李沢厚である。(中国社会科学院文学研究所研究員・文学理論研究室主任高建平氏の言。) その一人、宗白華 (1897-1986) は次のように言う。「生き生きとした自然界の形象、その本来の形体と生命は、何によって構成されたのであるか。われわれの常識では、一つの生命の形体は、骨・肉・筋・血から構成されていることを知っている。骨は生物体の最も基本的な構造で、骨があることによって、一つの生物体ははじめて能く立って行動することができる。骨に附着している筋は、すべての動作の主宰で、われわれの運動感の源泉である。骨と筋の外側に附着して、肉は骨と筋を包んで生命体に形象を有らしめている。筋肉の中に流れている血液栄養は、形体全体を潤している。骨・肉・筋・血などがあって、一つの生命体が誕生するのである。中国古代の書家が「字」も生命を表わし、生命を反映する芸術にしようとするなら、彼がもっている方法と工具で、字に一つの生命体の骨・肉・筋・血などの感覚を表わさなければならなかった。しかし、ここでは完全に絵をかいて、直接に客観形体を手本として示すのではなく、それはかなり抽象的である点・線・筆画などを通じて、われわれが情感と想像の中から、客体形象の骨・肉・筋・血などを体得させ、音楽や建築のように、われわれの感情および体の直感的形象を通じて、人類の生活内容と意義をも啓示できるのである。」(宗白華「中国書法における美学思想」1962 年より)



南朝から唐代の書論(書品論)に見える書法審美範疇語の相関図

研究代表者河内利治は「南朝から唐代の書論(書品論)に見える書法審美範疇語の相関図」(『書法美学の研究』2004 年, p. 46, 汲古書院)を作成し、造形の根本である 骨

筋・肉・字から形体表現の要素を考察し、主要な書の芸術性に関する術語を提示した。これは、中国古典(書論)における書の芸術性に関する術語を中国現代の美学者が重視して、書の美学思想を如何に形成したかを解明し得る一例である。

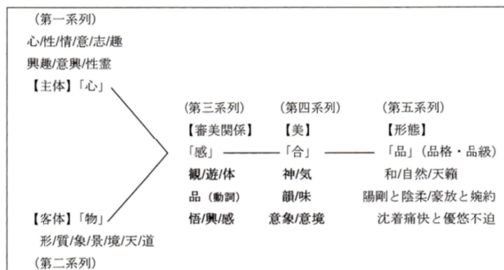
それは 21 世紀を代表する作家林語堂 (1895~1976) が、『My Country and My People』(1935)において、「中国書法の美をアミニズムの原理に帰すことは、私の発想ではなく、中国の文献に見える筆使いの肉・骨・筋に証明されている。しかしそれらの哲学的な意味は、西洋が書法を知的に理解できる方法や意味について考えるようになるまで、意識的には論じられてこなかった」とし、「中国美学の基礎としての中国書法の最重要点は、中国の絵画と建築の研究に見られよう。中国絵画の線や構成と中国建築の形態と構造において、中国書法から発展した原理を理解することができよう。こうした韻律・形態・情趣の基本的な考えが、たとえば詩、絵画、建築、磁器、室内装飾など、中国芸術の異なる線に本質的な精神体系を与えている」と論じる通りである。

さらに現代の中国美学者李沢厚 (1930-) が『華夏美学』(中外文化出版公司, 1989)において審美対象の拡大や唐の張懷瓘『書斷』について論じていることもその一例である(李沢厚著/興膳宏・中純子・松家裕子訳『中国の伝統美学』平凡社, 1995 年所収, 第三章「儒・道の相互補完」第二節「天地は大美有れども言わず」参照)。同じく現代の中国美学者葉朗 (1936-) も「唐代の孫過庭、張懷瓘、清代の劉熙載は研究するに値する。張懷瓘の特徴はかなりの理論的体系を有しており、思弁性があり、著述が少なくなく、マクロとミクロの両方の視点があり、研究に値する。劉熙載も良い。私は清代前期が全中国の伝統芸術を総括する時期であると考えている。……詩歌の領域では葉燮、絵画の領域では石濤であり、彼らはある面において総括的性質を帯びている。劉熙載は(清代後期のため)やや後れたが、彼のものは古典的範疇に属しており、同様に総括的性質を帯びている(上海書画出版社発行『書法』2002 年 8 月号, 鄭曉華「凝聚学界精英: 應對時代挑戰—葉朗教授訪談録」p.10)と書論の理論的体系と総括的性質を説いている。

現代中国を代表する書法理論の専門家熊秉明 (1922-2002) が『中国書法理論体系』香港商務印書館 1985 年(拙訳『中国書論の体系』白帝社 2006 年)において、同じく現代中国を代表する書法理論の専門家邱振中 (1947-) が『筆法与章法』(監訳『筆法と章法』芸術新聞社 2014 年)において、如上同様に書の芸術性に関する術語を重視して書の美学思想を形成している。特に「邱振中の最大の価値は、中国書法に対する思考の方式を変えたことにある。彼は流行する概念をわざと使用せずに文章を深く掘り下げただけ

でなく、簡単な理論の転用さえも行っていない。彼の言葉には智慧があり魅力があり、あらゆる語彙は彼が必要とするものである。現代の書法が進展するなかで、彼のような思考をもつ人はいない。現代の書法理論について言えば、邱振中は大きなターニングポイントであり、もし彼の理論を否定する者が登場するならば、その人はまず彼の中から多くのものを摂取するはずだからである。劉驍純（中国芸術研究院）」と評されるように、歴代書論から書の芸術性に関する術語（専門用語）を創り出して書の美学思想を形成している。

研究代表者は如上 6 人の論著を踏まえつつ、同時に成復旺主編・中国人民大学出版社《中国美学範疇辞典》を共同で完訳した（2002～2013）。その中で重要なのが下図の修正版「中国美学範疇体系図」である。



上図に見える術語が、中国美学全体における最重要の範疇（概念）である。本図は、詩文書画や音楽理論の古典文献のみならず哲学思想書からも抽出しているため、中国美学の解釈のみならず、時空を超えた書の芸術文化現象の諸価値を内在的に再構成することができる上、東アジアから世界に向かって書の芸術性を発信することが可能である。

2. 研究の目的

本研究は、現代中国の学者が古典（書論）からどのような術語をどのように解釈して書の芸術性を重要視したかを解明するものである。書は東アジア固有の芸術であり、中国では古代より現代に至るまで多くの学者が多様な角度から言及して来た。本研究では現代中国において書を論じた学者、林語堂・宗白華・李沢厚・葉朗・熊秉明・邱振中の6名に焦点を当て、彼らが古典文献から書の芸術性に関する如何なる術語を重視し、どのように解釈して書の美学思想を形成するに至ったかを解明することが第一の研究目的である。21世紀に生きる現代日本人の観点に立って、時空を超えた書の芸術文化現象の諸価値を内在的に再構成することが第二の研究目的である。東アジアから世界に向かって書の芸術性を発信することが第三の研究目的である。

3. 研究の方法

「中国美学範疇体系図」に見られる 意 天 神 韻 和 などの範疇の審美術語が、どの時代の書人・どの書論に用いられ

るかの用例を、2012 年度大東文化大学人文科学研究所研究報告書『成復旺主編・中国人民大学出版社《中国美学範疇辞典》訳注索引』の「人名索引」と「書名（作品名）索引」から精査すると同時に、林語堂・宗白華・李沢厚・葉朗・熊秉明・邱振中 6 名の各論著が引用する歴代書論の審美術語の用例を検出し、どのような書論を重視し、どのような書の芸術性に関する術語を重視したかを比較考察して解明し、「中国美学範疇解釈対照表」を作成する。併せて海外共同研究者（邱振中・高建平）を 2 名招聘して、「シンポジウム 書の芸術性 の伝統と未来」を開催し、研究成果の一端を公表するとともに、専用HPを開設して社会に向けて発信する。

4. 研究成果

(1) 「審美術語用例集」の作成とそれに基づく用例検出結果

第一系列	2 4 /	1 5 /	1 8 /	3 5 /	2 /	7 /	0 /	0 /	0 /	1 0 1 例
第二系列	1 6 /	1 1 /	6 /	0 /	0 /	1 /	1 /			3 5 例
第三系列	1 /	0 /	1 6 /	0 /	9 /	0 /	0 /			2 6 例
第四系列	2 7 /	3 5 /	1 0 /	8 /	1 /	0 /				8 1 例
第五系列	7 /	1 1 /	1 6 /	0 /	8 /	1 /	0 /			4 3 例
合計										2 8 6 例

『《中国美学範疇辞典》訳注索引』「人名・書名（作品名）索引」から用例を抽出してデータベース化し、「審美術語用例集」を作成した結果をまとめると上表のようになった。全 286 例を見てみると、第一系列「心」の「心」

「意」と第四系列「合」の「神」「氣」に用例が多いことが判明した。この結果は、『中国美学範疇辞典』に限るものではあるが、大よその傾向を示しているものと考えられる。

(2) 林語堂・宗白華・李沢厚・葉朗・熊秉明・邱振中の審美術語の用例検出と考察結果

1. 古典書論の用語(術語)を踏襲するか、あるいは新しい解釈を加えているか。

たとえば熊秉明は、宋人の「意」を「抒情派」と解釈し、林語堂は、中国の美学概念を英語に置き換えて表現し、邱振中は積極的に新しい術語(概念)を導入している。

2. 時代が要求した美意識について、どのように解釈しているか。

「晋は韻を尚ぶ」一門閥貴族の美意識

「唐は法を尚ぶ」一唐という時代性が見出した価値・美意識

「宋は意を尚ぶ」一士大夫階級の美意識

3. 批評概念は主に3種類に分けられると考えるが、一体どの概念に相当するのか。

普遍的な概念(人体に由来するもの): 筋骨など 古代哲学・美学思想の概念: 氣・意象など 書に特有の概念(書論の術語): 筆意・結構など

この三つの視点から考察した成果を簡単に抽出するならば、林語堂: 勢・美・力・文、rhythm やアニミズム、宗白華: 意境、文と情_シ、空白・布白と「空間」、李沢厚: 「線」、画の模倣と書の「意味ある形式」、盛唐の共時性、「文字」の従属性、葉朗: 「意象」「老子の美学」、熊秉明: 「書法は文化の核心の核心」、「六つの体系」、「書の審美術語」、邱振中: 「書の造形分析理論」、「筆法論」、「書と言語の関係」、「古典書論を言語現象として読む」ということになろう。研究代表者は、いわば中国古典の概念(術語)を解釈してどのように現代のことばに置き換えていくかが中国美学研究者の要諦であり、それを踏まえた上で、日本語でどのように書の美しさを語りうるかが書法美学者の課題であり、それは翻って、中国古典としての書論の重要性を再認識することになる、と考えている。なお邱振中氏の書論に対する解析は非常に優れた「書評」になっている。

(3) 「中国美学範疇解釈対照表」作成と考察結果

「中国美学範疇解釈対照表」は中国古典の書論に見られる術語を、現代の6人の学者がどのように解釈したかを試行的に対照させた一覧表である。勿論、十全にはほど遠いが、このように解釈を対照させること、すなわち、古代漢語を現代漢語または英語、延いては日本語に置き換えることが可能かどうか、本科研の課題であり帰着点である。今後さらに地道にこのような比較研究を続けていく必要がある。

(4) [国際研究集会]「シンポジウム 書の芸術性 の伝統と未来」の開催(大東文化大学, 2017.9.20)

主催: 日本学術振興会科学研究費補助金 美学・芸術諸学〔基盤研究C(一般)〕「書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈をめぐる比較研究」(研究代表者: 河内利治/研究分担者: 藤森大雅)後援: 大東文化大学書道研究所・大東文化大学人文科学研究所「東アジアの美学研究班」【基調講演】高建平氏(中国社会科学院)「中国と西洋、書と画に対する異なる概念」【基調講演】邱振中氏(中央美術学院)「書法理論の新概念」【座談会】テーマ: 書の芸術性 の伝統と未来, 登壇者: 河内利治・邱振中・高建平

(5) 研究報告書『書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈をめぐる比較研究』の刊行とWEB上の公開

下記の〔図書〕(1)を刊行した。また下記の〔その他〕ホームページに〔雑誌論文〕(1)(5)(8)と〔図書〕(1)を公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計12件)

(1) 河内利治・藤森大雅著
平成29年度科学研究費補助金「基盤研究C」研究報告—研究課題: 書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈をめぐる比較研究, 「大東書道研究」, 査読無し, 25, 2018, 84-54, オープンアクセス

(2) 甘中流著・河内利治訳
書の批評概念のパターンと理論のレベル, 大東文化大学人文科学研究所「東アジアの美学研究班」研究報告書「中国美学範疇研究論集」, 査読無し, 6, 2018, 23-27, オープンアクセス

(3) 葉朗著・河内利治監訳
『中国美学史大綱』第3章易伝の美学第5節 訳注, 大東文化大学大学院書道学専攻院生会発行「書道学論集」, 査読無し, 15, 2018, 17-28, オープンアクセス

(4) 河内利治著
「書は人なり」説, 大東文化大学文学部書道学科担当教員論文集「書への眼差し」, 査読無し, 2017, 8-12, オープンアクセス

(5) 藤森大雅著
中国書論における 観 について - 鑑賞と比較して -, 大東文化大学文学部書道学科担当教員論文集「書への眼差し」, 査読無し, 2017, 128-131, オープンアクセス

(6) 河内利治・藤森大雅著
平成28年度科学研究費補助金「基盤研究C」研究報告—研究課題: 書の芸術性に関する術

語と現代学者の解釈をめぐる比較研究,「大東書道研究」,査読無し,24,2017,158-125,オープンアクセス

(7) 甘中流著・河内利治監訳・藤森大雅・亀澤孝幸・池田絵理香訳,『中国書法批評史』第五編近代書法批評,大東文化大学人文科学研究所「東アジアの美学研究班」研究報告書「中国美学範疇研究論集」,査読無し,5,2017,37-73,オープンアクセス

(8) 河内利治著
書の筆法から見る木簡・尺牘の世界,奈良女子大学古代学学術研究所センター「若手研究者支援プログラム」:「漢字文化の受容-東アジア文化圏からみる手紙の表現と形式-」報告集,査読無し,12,2017,19-38,<http://hdl.handle.net/10935/4562>

(9) 河内利治・藤森大雅著
平成27年度科学研究費補助金「基盤研究C」研究報告-研究課題:書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈をめぐる比較研究,「大東書道研究」,査読無し,23,2016,156-123,<https://opac.daito.ac.jp/repo/repository/daito/50470/?lang=0>

(10) 張晶著・河内利治訳
「中華美学精神」の基本特質についての試論,大東文化大学人文科学研究所「東アジアの美学研究班」研究報告書「中国美学範疇研究論集」,査読無し,4,2016,13-30,オープンアクセス

(11) 陳来著・河内利治訳
黄道周の学術傾向(下),大東文化大学紀要人文科学,査読無し,54,2016,41-58,オープンアクセス

(12) 河内利治著・朱孝純訳
美的範疇と“書法”,中国社会科学院文学研究所学術專輯『東西方交匯中的中日文学与思想:共同紀念國際學術研討會論文集』,社会科学文献出版社,査読無し,2016,320-342,オープンアクセス

〔学会発表〕(計1件)

(1) 藤森大雅
書の芸術性に関する術語と現代学者の比較研究- 意境 神彩 について -,大東文化大学人文科学研究所東アジアの美学研究班,2015.10.26

〔図書〕(計2件)

(1) 河内利治・藤森大雅
大東文化大学河内利治研究室発行,書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈をめぐる比較研究(平成27年度~平成29年度科学研究費補助金「基盤研究C」研究報告書),2018,117

(2) 俞鷹潔・俞建華著・河内利治監訳・樋口将一訳,大樟樹出版社,中国書法通解,2017,215

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)
取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ:河内利治(君平)Kunpei KAWACHI-志書-オフィシャルサイト,JSPSS
<http://lizhi.tabigeinin.com/laoshi2012/research/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河内 利治(Kawachi Toshiharu)
大東文化大学・文学部書道学科・教授
研究者番号:70249077

(2) 研究分担者

藤森 大雅(Fujimori Hiromasa)
大東文化大学・書道研究所・講師
研究者番号:70622596

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

門脇 廣文(Kadowaki Hirofumi)
橋本 貴朗(Hashimoto Takaaki)
須山 哲治(Suyama Tetsuji)
荻野 友範(Ogino Tomonori)
秋谷 幸治(Akiya Koji)
角田 健一(Tsunoda Kenichi)
亀澤 孝幸(Kamezawa Takayuki)
葉山 恭江(Hayama Yoshie)
池田 絵理香(Ikeda Erika)
陳 達明(Chen Daming)
承 春先(Chen Chunxian)

* 海外共同研究者

邱 振中(Qiu Zhenzhong)
高 建平(Gao Jianping)